

# 「課題発見・解決学習」の取組 成果と課題

海田町立海田南小学校

## 1 取組

(1) 道徳科 ～カリキュラムマネジメントに基づいた授業の工夫・改善～

- ①昨年度までに開発した家庭・地域と一体となった体験活動を含む「道徳学習プログラム」のブラッシュアップ
- ②授業研究 2回実施

第5学年 道徳学習プログラム テーマ「受け継ごう！ふるさと海田町」  
 「親から子へ、そして孫へと」C(17)【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】  
 ・地域に伝わる文化財や伝統文化に愛着を深めながら、先人の願いや良さを受け継いでいこうとする態度を育てる。

関連：総合的な学習の時間  
「ふるさと海田の魅力発見！」

第3学年 道徳学習プログラム テーマ「相手の気持ちを考えられるすてきな自分」  
 「黄色いかさ」C(11)【規則の尊重】  
 ・自分の思いだけでなく、周囲のことや様々な立場の人のことを考え、行動しようとする態度を養う。

関連：総合的な学習の時間  
「やさしさ届け隊」

(2) 算数科 ～「課題発見・解決学習」をはじめとした「主体的な学び」を促す授業の工夫・改善～

- ①主体的な学びを促す発問について授業動画視聴による授業研究 4回実施

第6学年 「比」  
 特別支援学級(知的) 「水のかさを調べよう」  
 第2学年 「さんかくとしかくのかたちを調べよう」  
 第1学年 「どちらがおおい」※指導講話：広島大学 松浦武人教授

・事前に授業を録画  
 ・研修前に授業動画各自視聴  
 ・授業動画と授業記録から主体的な学びを促す発問に焦点を絞って協議

### 実践例： 第1学年 算数科「どちらがおおい」

#### 【本時の目標】

形の異なる4種類の入れ物に入ったジュースのかさを比べる活動を通して、同じ入れ物に移しかえて比べるよさに気づき、間接比較の方法を説明することができる。

#### 【学習の流れと主な発問】

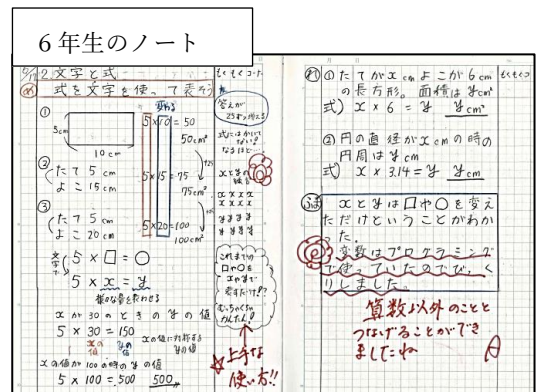
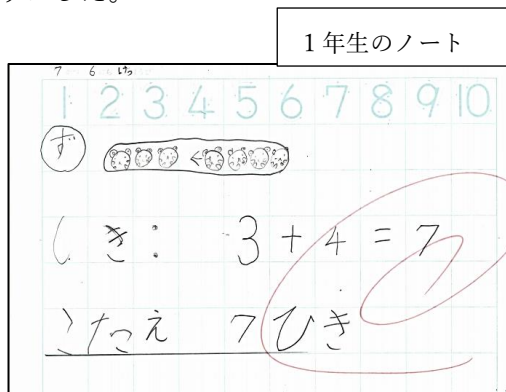
- 1 前時の復習 ○前の時間、どんな方法で比べましたか。
  - 2 問題の提示 ○前の時間との違いは何でしょう。
- 4種類のジュースがあります。どのジュースが一番多いでしょうか。
- 3 課題の提示  
 どれが いちばん おおいだろう。
  - 4 自力解決をする
  - 5 全体交流をし、確かめる ○出た意見で似ているところはどこだろう。
  - 6 まとめ  
 べつのおなじいれものにうつして たかさで くらべることができる。

自ら課題をつかむための発問

複数の見方・考え方の類似点・共通点について比較・検討ための発問

- ②主体的に学習に取り組む態度を評価するノート指導研修

各学年でノートを持ち寄り、発達段階に応じた「目指すノート像」を共通確認し、指導に活かすことができるようにした。



## 2 取組の成果 (○) と課題 (●)

### (1) 道徳科 (畿央大学 島恒生教授のご指導より)

- 道徳プログラムを実態や現在の状況に合わせて全学年がブラッシュアップし、実践することができた。
- 総合的な学習・生活科等と横断的に学習を進めたことにより、道徳科で道徳的価値の自覚を深め、教育活動全体で道徳的実践力を育てることができていた。
- ねらいが浅すぎると、児童にとって答えが分かる道徳の授業となってしまう。同じ主題が、発達段階によってどのように異なるのか踏まえた上で本時の目標を設定する必要がある。
- 児童実態、環境から、足りないから指導するというのではなく、児童自身がすでにもっているものへの価値づけとして道徳科の授業を行うという意識改革が必要である。

### (2) 算数科 (広島大学 松浦武人教授のご指導より)

- 新しい形の授業研究を模索し、様々な目的をもった発問について教員が共通確認することができた。

研修を通して確認した、大切にしたい発問のポイント

- 切り札の発問 (数多くの発問ではなく、精選した発問に)
  - ・児童同士の問いを大切に
  - ・教師の発問は切り札として
- 多面的な考え方を引き出す発問  
「さっきは○○だったけど、今度は？」
- 共通点⇒多様な視点⇒既習と結びつける発問  というように、一つの授業で発問レベルを上げる
- 共通点を問い、一般化を図る発問

- 具体物により問題を提示し、考えを説明する活動を取り入れたことにより、現実的表現から、言語的表現に引き上げることができた。(～さんは、どう考えてこのコップのジュースの量が多いと考えたのかな?)
- 「似た考えはないかな？」と一般化を図る発問を意図的にすることができている。
- 教員の発問に対する意識が向上した。

研修のふりかえりより

改めて発問の重要性を感じました。授業の中でふれない切り札となる発問で考えを深めることもとても大事ですが、そこを上げていく補助的な発問(上げる、つげる、助ける)は、子ども達のその場の声や考えが出てほしいと分らない部分があって、どうしよう…となることが多いです。

「発問」は難しいと感じた。② → 子どもの考えを引き出すには、  
どうすればいい? (わがやに似てる、いいね、(あはれ、あはれ))  
①が話し下すともいいね。 Qのレベルの発問を知りたい。

あつこう思いました②

発問を子どもの発達段階に合わせてするためには教員研修が不可欠である。改めて分かった。研修を通して自分なりに考えを深める発問を意識し、工夫して授業をするようになった 4-③-2-1

- 単元内で考えの共通点を見つけるための発問はできていたが、単元を越えて統合的に考えることまで目指した発問・展開も必要である。
- 発達段階に応じて、発言に対しての反応が柔軟に返せるようになると良い。いつも「いいと思います。」では、児童の考えをつなげた授業展開は難しい。児童の小さなつぶやきの中に、それぞれの考え方がかかれている場合が多い。児童のつぶやきに対して「なぜ？」と切り返すことで、様々な表現をすることができるようになり、さらに主体的な学びとなっていく。
- 児童自身が学びたいと思える課題設定を研究していく必要がある。